

がん対策の進捗評価のための 「患者体験調査」 ご協力のお礼と報告

「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究」
(研究代表者：若尾文彦)

平成27年7月3日
国立がん研究センターがん対策情報センターがん政策科学研究部

東 尚弘

第2期がん対策推進基本計画(平成24年6月)

全体目標

がんによる死亡者の減少
(75歳未満の年齢調整死亡率の20%減少)

全てのがん患者及び家族の苦痛の軽減と療養生活の質の向上

がんになっても安心して暮らせる社会の構築

分野別施策およびその達成度を測るための個別目標

1. がん医療

①放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進 ②がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成 ③がんと診断された時からの緩和ケアの推進 ④地域の医療・介護サービス提供体制の構築 ⑤医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組 ⑥その他

2. がん医療に関する相談支援・情報提供

3. がん登録

4. がんの予防

5. がんの早期発見

6. がんの研究

7. 小児がん

8. がんの教育・普及啓発

9. がん患者の就労を含めた社会的な問題

患者体験調査

特徴

- 公正中立な評価のために母集団を明確にすること
 - 2012年診断の悪性腫瘍・拠点病院で初回治療
 - 厳密な無作為多段階抽出
- 個人情報保護
 - 拠点病院を通して発送（負担軽減のため委託業者は紹介）
 - 研究班では個人情報を扱わない
- 協力施設の負担は可能な限り軽減
 - サンプルの抽出を事務局で支援
 - 問い合わせは全て研究班で対応
 - 費用は全て研究班で支出

多段階無作為抽出



1. 病院抽出：各都道府県で
 - － 都道府県拠点病院全施設
 - － 地域拠点病院2施設を無作為抽出

2. 患者抽出：各施設内で計100名
 - － 希少がん（暫定定義） 15名
 - － 19歳～39歳 15名
 - － その他のがん 70名を無作為抽出
 - － がん以外の受診者 5名

患者体験調査、結果

- 134施設参加（30施設が不参加）
- 質問紙回収率：53%（=返送7404/発送14070）
- 母集団よりも
 - 多少年齢が高い（67.5vs66.8歳）
 - 男女比は多少男性が多い（男57%vs56%）
- サンプルが代表する患者数で重み付け

がん対策推進基本計画中間評価へ掲載

第2期がん対策推進基本計画進捗管理指標一覧

2015年6月2日作成

全=全体目標、A=医療分野指標、B=研究技術開発分野指標、C=社会分野指標、緑=緑ケア和分野指標、予=予防分野指標、早=早期発見分野指標
(補正值)とは、患者体験調査においてサンプルの確率を補正した値を指す。指標再掲の場合は指標名のみを記す。

データ源の測定年

全体目標

1. がんによる死亡者の減少

がんの年齢調整死亡率(75歳未満)の20%減少

全0	指標名:	がんの年齢調整死亡率		
	データ源:	人口動態統計		
	対象:	がん		
	指標:	算出法: がんの年齢調整死亡率(75歳未満)	2005年 92.4 /人口10万人	2013年 80.1 /人口10万人
	備考:	人口動態統計を元に算出され、がん情報サービスに掲載されている全がんの75歳未満年齢調整死亡率 http://ganjoho.jp/professional/statistics/statistics.html#pref_mortality 2005年(基準年)は人口10万人対92.4。		

2. 全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上

がんと診断された時からの緩和ケアの実施はもとより、がん医療や支援の更なる充実等により、「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」を実現することを目標とする。

要素1) 医療の進歩

全1	指標名:	医療が進歩していることを実感できること		2015年
	データ源:	患者体験調査の問32		
	対象:	がん患者		
	指標:	算出法: 「問32. 一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと思いますか?」という問いに対し、1.そう思う、または2.ややそう思うと回答した患者の割合		80.1% (補正值)
	備考:	がんと診断されたことはないと回答したものは除外し、がん患者の回答6729名を対象として集計 本問への無回答538は除外。「1.そう思う」(3707)、「2. ややそう思う」(1158)との回答を合算		

要素2) 適切な医療の提供

全2a	指標名:	患者が、苦痛が制御された状態で、見直しをもって自分らしく日常生活をおくることができること(からだの苦痛)		2015年
	データ源:	患者体験調査の問44a		
	対象:	がん患者		
	指標:	算出法: 「問44a. 現在の心身の状態についてお答えください。からだの苦痛がある。」という問いに対し、4.あまりそう思わない、または5.そう思わないと回答した患者の割合		57.4% (補正值)
	備考:	がんと診断されたことはないと回答したものは除外し、がん患者の回答は6729名、うち、記入者が患者本人であると回答した5234名を対象として集計。 本問への無回答131は除外。「4.あまりそう思わない」(1302)、「5.そう思わない」(1607)との回答を合算。		

例) セカンドオピニオンの説明を受けた患者

A19	指標名: セカンドオピニオンの説明を受けたがん患者の割合 (セカンドオピニオン)	
	データ源: 患者体験調査	2015年
	対象: 指標: がん患者	算出法: 治療開始をする前に、医師からセカンドオピニオン*を受けられることの説明を受けた人の割合
留意点:	患者体験調査の問11、「がんの治療が始まる前に、ほかの医師の意見を聞くセカンドオピニオンをうけられることについて担当医から説明はありましたか？」で、「1.説明があった」と回答した患者の割合を算出。6729名の内、無回答214名と。「9.わからない/覚えていない」と解答した1183名を除外。(2255)が「1.説明があった」と回答。	

- 「わからない」という回答は除外されていることに注意
- セカンドオピニオンを説明されるのは4割程度
- 現状への評価と今後の対策は要検討

今後の予定

- 各指標の詳細は報告書を参照
 - 都道府県別の結果を含む
- 報告書は、関係者へ配布予定
- 参加施設へは自施設分の個別結果を返却します

ご協力ありがとうございました